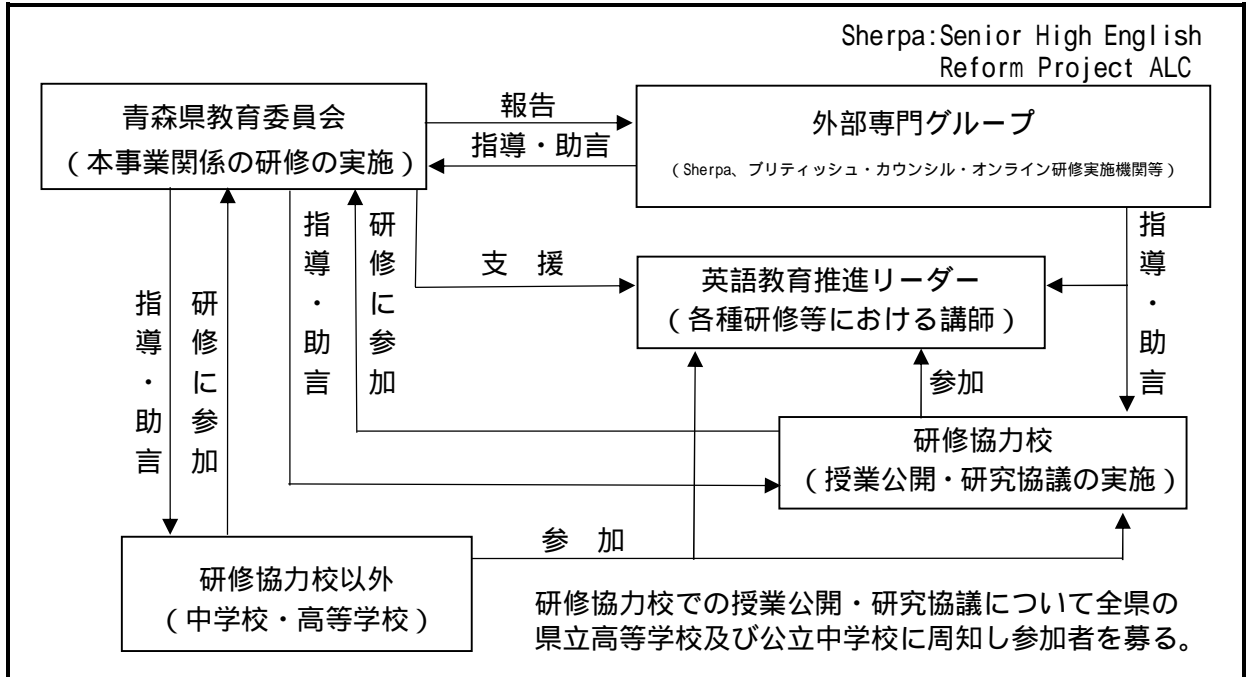


(様式 3 - 2)

青森県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

現状は、平成30年度英語教育実施状況調査の結果に基づく。

求められる英語力を有する担当教員の全担当教員に占める割合

(英検準1級程度以上)

現状では、高等学校は73%、中学校は24%である。平成26年度から実施してきた英語検定準1級以上の受験料補助とともに、平成28年度から開始したTOEIC-IP受験を組み入れた研修を継続することで、外部検定試験の受験機会を増やし、担当教員の英語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。令和元年度においては、高等学校は75%以上、中学校は50%以上を目指すこととする。

求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合

(中学校3学年は英検3級程度、高等学校3学年は英検準2級～2級程度)

現状では、高等学校は42%、中学校は36%である。4技能の総合的な育成を目標に、英語検定のみならず外部検定試験の受験を一層奨励する。令和元年度においては、中学校、高等学校ともに50%以上を目指すこととする。

「CAN-DOリスト」の形式で技能別に設定した学習到達目標の整備状況

(設定・公表及び達成状況の把握等の状況)

現状では、高等学校は設定100%、公表45%、達成状況の把握59%、中学校では設定97%、公表8%、達成状況の把握29%である。研修会を通して県内先進校や研修協力校の事例を共有し、協議の場を設けたり、関係校に個別に働きかけるなどしながら、令和元年度は全ての項目において100%を目指すこととする。

授業における生徒の英語による言語活動時間の占める割合

現状では、高等学校は63%、中学校は67%である。英語教育推進リーダーによる英語担当教員の指導力等向上研修や県総合学校教育センターでの講座等に加え、特に、高等学校においては、ディベートや発信型の授業モデルについてワークショップ等を開催し、生徒の英語による言語活動の充実を図る。令和元年度においては、高等学校は65%以上、中学校は75%以上を目指すこととする。

パフォーマンステストの実施状況

現状では、高等学校におけるスピーキングテストの平均が年間0.6回、ライティングテストの平均は年間1.3回で、中学校はスピーキングテストの平均が年間3.2回、ライティングテストが年間2.7回である。これまでの研修協力校の研究成果（パフォーマンステストを始めとする評価法に焦点をあてた授業モデルの開発）等を、研修協力校における研究協議会等を通して全县に波及させる。また、英語教育推進リーダーとの緊密な連携を図り、令和元年度においては、高等学校ではスピーキング、ライティングとも平均で年間3回、中学校では年間5回を目指すこととする。

授業における英語担当教員の英語使用状況

現状では、高等学校は38%、中学校は54%である。高等学校においては、訪問指導の際に互見授業や英語力向上のための自己研鑽を奨励する。特に、互見授業等をきっかけとした担当教員間の密な連携や英語教育推進リーダーによる研修実習、外部講師を招いての指導力等向上研修を通して、英語による授業のノウハウの蓄積・共有と実践を図り、令和元年度においては100%を目指すこととする。中学校においても同様の展開を目指し、次期学習指導要領の実施を見据え、90%を目指すこととする。

県内の全ての学校における研修実施回数、研修受講者の人数及び全担当教員に占める割合

英語教育推進リーダーや県総合学校教育センター及び県内6教育事務所の指導主事と連携し、令和元年度においては、高等学校はのべ14回、のべ400名、中学校はのべ11回、のべ240名、小学校はのべ12回、のべ630名の受講を目指す。特に、小学校及び中学校においては、県総合学校教育センターとの連携をより密にし、次期学習指導要領の実施に向けた講座の受講者数増加を目指すこととする。

(3) 研修の体系と内容の具体

令和元年度の研修

小学校外国語・外国語活動研修講座

(6月、小学校30名、県総合学校教育センター)

文教大学教授 金森強氏による講義や演習を通して、外国語及び外国語活動の指導の方向性を考える機会とする。特に、実践発表等により、コミュニケーション活動の充実を目指した指導法を体験的に学び、授業改善について考える。また、アンケートにより研修の評価を行う。

研修協力校における研究協議会(第1回～第3回)

(6月・9月・2月、中学校及び高等学校のべ105名、県立三本木高等学校及び附属中学校)

授業公開や合評会等を通して、スピーキング活動等のアウトプットを重視した授業モデルの構築を目指し、多様な活動事例を共有するとともに、基礎力の定着に向けて音声や画像等をともなう教材を使用したウォームアップ活動等の実践のため、また英語科教員間で使用するハンドアウト等の教材について情報共有を図るということを目的としてタブレット等のICTの活用や中高連携のあり方、CAN-DOリストで設定した目標の達成状況を把握するためのパフォーマンステスト等について協議する。東京学芸大学名誉教授 金谷憲氏からの指導・助言をもらう。また、アンケートにより研修の評価を行う。

高等学校英語科言語活動実践講座

(6月、高等学校20名、県総合学校教育センター)

順天堂大学准教授 小泉利恵氏による講義や演習を通して、新学習指導要領の実施に向けた授業改善の視点から、スピーキングに焦点を当てた言語活動の充実について考えるとともに、生徒の実態に則した活動を含む授業実践例の作成を通して、多様な指導法や評価方法について理解を深める。また、アンケートにより研修の評価を行う。

英語コミュニケーション能力向上研修(第1回及び第2回)

(7月及び12月、中学校及び高等学校170名、県総合学校教育センター)

TOEIC-IP受験と教員のコミュニケーション能力や教科指導力の向上に向けての講座を研修に組み入れた、中学校及び高等学校教員の合同研修を通し、県全体の外国語担当教員の

英語力向上を図る。また、英語教育推進リーダー及び研修協力校による詳細な実践発表等を通して、中高連携に関わる現状と課題や「6年間でやる英語教育」という視点を共有する。大学教授（未定）や株式会社ビズコム 講師（予定）等からの指導・助言をもらう。また、アンケートにより研修の評価を行う。

英語担当教員の指導力等向上研修～即興型英語ディベート研究会～
（7月、高等学校30名、県立青森南高等学校）

即興型英語ディベートについての研修を受講してルールやジャッジのポイントについて習得した英語教育推進リーダーらを講師とし、実践事例やディベート交流大会の取組の紹介やワークショップを通して、各校において言語活動としてディベートを実施する際に必要な知識・技能について情報を共有する。また、アンケートにより研修の評価を行う。

中学校英語指導法研修講座
（9月、中学校30名、県総合学校教育センター）

東京学芸大学人文社会科学系外国語・外国文化研究講座英語科教育学分野国際教育センター教授 馬場哲生氏による英語教育法や言語活動に関する講義や演習、英語教育推進リーダーによる演習を通して、次期学習指導要領の趣旨に即した授業改善の取組を支援するとともに、学習状況調査や高校入学者選抜検査等についても考察し、指導の改善に役立てる。また、アンケートにより研修の評価を行う。

高等学校英語指導法改善講座
（9月、高等学校20名、県総合学校教育センター）

上智大学教授 和泉伸一氏による講義や演習を通して、新学指導要領の基本方針を踏まえ、英語教員に期待されることを再認識し、今後の英語教育の方向性を確認する。主体的・対話的で深い学びの視点から授業づくりを捉え直し、生徒のコミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導法を学ぶことで今後の授業改善に役立てる。また、アンケートにより研修の評価を行う。

中学校英語授業づくり研修講座
（10月、中学校30名、県総合学校教育センター）

関西大学教授 田尻悟郎氏による講義・演習を通して、小学校や高等学校それぞれの段階でどのような指導が行われているのかを知り、英語教育における中学校の役割や求められていることについて考える。また、それを受けて、中学校の授業をどのように改善し、子供たちの資質・能力を高めていけば良いかについて講義・演習を通じて理解を深める。また、アンケートにより研修の評価を行う。

外国語指導助手指導力等向上研修
（11月、ALT及びALT担当教員200名、県総合学校教育センター）

外部専門機関（大学）の講師（未定）による講義・演習や外国語指導助手と小学校・中学校・高校の外国語（活動）担当教員合同のワークショップ、各教員による事例発表及び小中高の連携についての研究協議等を行う。また、アンケートにより研修の評価を行う。

小学校教員の英語力・指導力向上支援プログラム

「小学校英語教育メンター育成プログラム（令和元年度）」では、平成27～30年度中核教員研修受講者及び小学校専科指導教員の英語力・指導力向上を図り、メンターとして育成する。また、「中核教員・英語専科指導教員研究協議会（令和元年度～2年度）」を開催し、小学校における外国語活動・外国語科の指導等に係る現状と課題について協議し、指導の改善につなげる。支援が必要な小学校、要請があった小学校に対して支援訪問を実施する。

あおもり英語4技能向上プロジェクト「結果分析会及び協議会」

（3月、高等学校80名、県総合学校教育センター）

県の継続重点事業「青森県の将来を担うグローバル人財育成事業」において収集した県内高校生の英語4技能のデータを基に、英語教育推進リーダー等による分析や情報共有を通して2年間にわたり作成した指導・評価モデルを、高等学校英語教員へ伝達する。

令和2年度以降の研修

青森県教育委員会が主体となって、各研修におけるアンケートのデータを集約し、結果の分析及び研修成果の検証を行う。その結果を、県総合学校教育センター及び研修協力校、英語教育推進リーダー等と共有・協議し、令和元年度以降の研修や研究協議会の計画に反映させる。

また、英語教育実施状況調査の結果を目標管理書による目標値と照らし合わせ、研修の実施形態等について年度ごとに必要な修正を行う。

(4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月		
5月		
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校外国語・外国語活動研修講座（小、2日） ・ 小学校英語教育メンター育成プログラム（小、3日） ・ 研修協力校における第1回研究協議会（中高、1日） ・ 高等学校英語科言語活動実践講座（高、2日） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文教大学教授 金森強氏 ・ 英語教育推進リーダー （未定） ・ (株)ビズコム 山縣画児氏 ・ 東京学芸大学名誉教授 金谷憲氏 ・ 順天堂大学准教授 小泉利恵氏
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回英語コミュニケーション能力向上研修（中高、1日） ・ 英語担当教員の指導力等向上研修～即興型英語ディベート研究会～（高30名、2日） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学教授（未定） ・ 英語教育推進リーダー （未定）
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中核教員・英語専科指導教員研究協議会（小、2日） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教育事務所指導主事
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校英語指導法研修講座（中、2日） ・ 研修協力校における第2回研究協議会（中高、1日） ・ 高等学校英語指導法改善講座（高、2日） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東京学芸大学教授 馬場哲生氏 ・ 東京学芸大学名誉教授 金谷憲氏 ・ 上智大学教授 和泉伸一氏
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校英語授業づくり研修講座（中、2日） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関西大学教授 田尻悟郎氏
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国語指導助手指導力等向上研修（小中高、2日） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学教授（未定）ほか
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回英語コミュニケーション能力向上研修（中高、1日） ・ 中核教員・英語専科指導教員研究協議会（小、2日） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ (株)ビズコム講師 （予定） ・ 英語教育推進リーダー （未定） ・ 各教育事務所指導主事
1月		
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修協力校における第3回研究協議会（中高、1日） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東京学芸大学名誉教授 金谷憲氏
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ あおもり英語4技能向上プロジェクト「結果分析会及び協議会」（高、1日） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語教育推進リーダー （未定）
<p>【その他の取組】 中学校・高等学校の外国語担当教員の外部検定試験（実用英語技能検定試験第2回及び第3回検定）の受験料を補助する。</p>		

小学校外国語・外国語活動研修講座、中学校英語指導法研修講座、中学校英語授業づくり研修講座、高等学校英語科言語活動実践講座、高等学校英語指導法改善講座は県費で実施する。

